

- 4) 観測番號は、黄道光、對日照と分けて月毎、或は年毎に變へることなく、通し番號にすること。
又、一夜に二回以上観測を行つた様な場合は、番號を進めることなく、例へば No. 18_a, No. 18_b のやうにすること。
- 5) 地平線の位置は、推定のもので加へること。
- 6) スケッチは實線で、明るさの中心線は鎖線(—・—・—・—)で畫くこと。
- 7) 離角や幅は 1° を單位とし、頂點の偏りは 0.5° を單位とし、以下は四捨五入すること。

観測は一般の場合、成る可く好時刻短時間に行ふのであるけれど、特に日没より開始し、薄明との關係を究め、又、黄道光の時間的推移を記録するために、長時間の観測を遂行すること、特に宵から始めて翌曉に至る東西兩天の長時間観測を、同一人にて、適當な時機に行ふことは、甚だ興味深く、又、價値の多いものである。

發明物語 「日本へ渡つて來た望遠鏡」

作 高城武夫、古川利隆
 日時 昭和十五年十一月二十日(水) 自11時 至11時30分
 出演 大阪天王寺師範附屬小學校兒童
 發局 大阪 (J. O. B. K.)

目 的

讀本卷六「僕の望遠鏡」學習の機會に、望遠鏡の發明、發達、特に我國に於ける發達の過程に於いて、昔の日本の科學發達が、如何に苦心したかを知らしめ兒童の精神を鼓舞する

内 容

望遠鏡が日本へ渡來したのは約三百年前(家康駿河に薨じた頃)と云はれる。長崎から京都、大阪、江戸へ製法が傳はり、諸大名は有力な武器としてこれを欲したが、幕府は政策上危険と考へて、諸大名に持たせる事を禁じた。故に製作は後世に傳はらなかつたが、南蠻等より相當舶載された。

日本のガリレオといはれる岩橋善衛や、京都二條城の經度を決定した高橋作右衛門(この測定値は現今の観測と比べて僅か經度 2 秒——距離にして 50 米 70 厘の差に過ぎぬ)、日本地圖を作つた伊能忠敬等の逸話を中心に、平易に面白く構成する。

現代の望遠鏡に就いても觸れる。